

令和7年11月30日（日）施行

第220回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|------|
| ① | 直接労務費 | ② | 間接材料費 | ③ | 間接経費 |
| ④ | 直接材料費 | ⑤ | 間接労務費 | | |

第2問

| | 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|--------------|--------------------|----------|--------------------|
| 1 | 材料 | 105,000 | 買掛金 | 105,000 |
| 2 | 仕掛品 製造間接費 | 100,000 10,000 | 材料 | 110,000 |
| 3 | 仕掛品 製造間接費 | 418,660 134,940 | 貸金 | 553,600 |
| 4 | 製造間接費 | 20,000 | 普通預金 | 20,000 |
| 5 | 製品 | 500,000 | 仕掛品 | 500,000 |
| 6 | 売掛金 売上原価 | 800,000 600,000 | 売上 製品 | 800,000 600,000 |

第3問

直接材料費

| | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 月初仕掛品 | ¥ 99,975 ? 個 | 当月完成品 | (¥ 499,175) ? 個 |
| 当月投入 | ¥ 598,800 ? 個 | 月末仕掛品 | (¥ 199,600) ? 個 |

加工費

| | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 月初仕掛品 | ¥ 280,160 ? 個 | 当月完成品 | (¥ 1,749,320) ? 個 |
| 当月投入 | ¥ 1,749,000 ? 個 | 月末仕掛品 | (¥ 279,840) ? 個 |

第4問

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | オ | ② | イ | ③ | エ |
| ④ | ア | ⑤ | ウ | | |

第5問

原価計算表

(単位：円)

| 製造指図書 摘要 | #57 | #58 | #59 | 合計 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 月初仕掛品原価 | (402,350) | — | — | (402,350) |
| 直接材料費 | — | (30,000) | (39,520) | (69,520) |
| 直接労務費 | (34,500) | (184,000) | (110,400) | (328,900) |
| 製造間接費 | (57,000) | (304,000) | (182,400) | (543,400) |
| 合計 | (493,850) | (518,000) | (332,320) | (1,344,170) |
| 備考 | 完 成 | 完 成 | 仕 掛 中 | |

令和 7 年 11 月 30 日（日）施行

第 220 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 直接工が組立作業に要した時間分の賃金消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる労務費であるため、直接労務費である。
2. 自動車の製造に必要な消耗品の原価は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる材料費ではないため、消耗工具器具備品費として間接材料費である。
3. 工場建物の減価償却費は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる経費ではないため、間接経費である。
4. 車体に使われる鉄板の消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる材料費であるため、主要材料として直接材料費である。
5. 直接工が機械の故障により待機している時間分の賃金消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる労務費ではないため、間接労務費である。

第 2 問

1. 原料を購入した場合には、借方に材料勘定(資産の増加)を用いて処理する。
代金は送料とともに取引先の当座預金口座に当月末までに振り込むこととした場合には、貸方に買掛金勘定(負債の増加)を用いて処理する。
材料の取得原価＝購入代価¥100,000＋送料¥5,000＝¥105,000
2. 製品を製造するために主要材料と補助材料を出庫した場合には、貸方に材料勘定(資産の減少)を用いて処理する。
出庫した主要材料は、直接材料費となるため、材料勘定(資産の勘定)から仕掛品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
出庫した補助材料は、間接材料費となるため、材料勘定(資産の勘定)から製造間接費勘定(費用の勘定)へ振り替える処理をする。
3. 当月の直接工による賃金を消費した場合には、貸方に賃金勘定(費用の勘定)を用いて処理する。
当月の直接工による加工時間と段取時間に相当する賃金は、直接労務費となり、賃金勘定(費用の勘定)から仕掛品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
当月の直接工による間接作業時間と手待時間に相当する賃金は、間接労務費となり、賃金勘定(費用の勘定)から製造間接費勘定(費用の勘定)へ振り替える処理をする。
直接工の 1 時間当たりの賃金（消費賃率）を計算する
消費賃率＝当月の直接工に対する基本賃金¥553,600÷(加工時間 208 時間＋段取時間 34 時間
＋間接作業時間 65 時間＋手待時間 13 時間)＝@¥1,730
仕掛品(直接労務費)：(加工時間 208 時間＋段取時間 34 時間)×消費賃率@¥1,730＝¥418,660
製造間接費(間接労務費)：(間接作業時間 65 時間＋手待時間 13 時間)×消費賃率@¥1,730＝¥134,940
4. 工場で発生した通信費が普通預金口座から引き落とされた場合には、通信費は製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる経費ではないため、間接経費として借方に製造間接費勘定(費用の勘定)を用いて処理する。
5. 製造指図書 #7 の製品が完成し、倉庫に保管した場合には、完成品の製造原価を仕掛品勘定(資産の勘定)から製品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
6. 倉庫に保管していた製造指図書 #6 の製品を請求書とともに顧客に引き渡した場合には、借方に売掛金勘定(資産の増加)を用いて処理し、貸方に売上勘定(収益の発生)を用いて処理する。

記帳は売上原価対立法によるため、引き渡した製品の原価を製品勘定(資産の減少)から売上原価勘定(費用の発生)へ振り替える処理をする。

第3問

材料はすべて工程の始点で投入しており、月末仕掛品の評価は先入先出法による

月末仕掛品原価と完成品原価の算定

| 直接材料費 | | | |
|---------|----------------|---|----------------|
| ¥99,975 | 月初仕掛品 100 個 | → | 当月完成品 500 個 |
| | ¥598,800 | ↘ | 月末仕掛品 200 個 |
| | | | |
| | | | ¥499,175 |
| | | | ¥199,600 |

月末仕掛品原価： $¥598,800 \div 600 \text{ 個} \times 200 \text{ 個} = \underline{\underline{¥199,600}}$

当月完成品原価： $¥99,975 + ¥598,800 - ¥199,600 = \underline{\underline{¥499,175}}$

| 加工費 | | | |
|----------|---------------|---|----------------|
| ¥280,160 | 月初仕掛品 80 個 | → | 当月完成品 500 個 |
| | ¥1,749,000 | ↘ | 月末仕掛品 80 個 |
| | | | |
| | | | ¥1,749,320 |
| | | | ¥279,840 |

月初仕掛品の換算量 = $100 \text{ 個} \times 80\% = 80 \text{ 個}$

月末仕掛品の換算量 = $200 \text{ 個} \times 40\% = 80 \text{ 個}$

当月投入 の換算量 = $500 \text{ 個} + 80 \text{ 個} - 80 \text{ 個} = 500 \text{ 個}$

月末仕掛品原価： $¥1,749,000 \div 500 \text{ 個} \times 80 \text{ 個} = \underline{\underline{¥279,840}}$

当月完成品原価： $¥280,160 + ¥1,749,000 - ¥279,840 = \underline{\underline{¥1,749,320}}$

第4問

ア. 当月に完成した製品の原価

→ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわす。

イ. 工作機械の設定変更に要した時間分の賃金消費額：直接労務費にあたる

→ 賃金・給料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。

ウ. 当月に販売した製品の原価

→ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわす。

エ. 製造間接費の配賦額

→ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。

オ. 工作機械に取り付ける部品の消費額：間接材料費にあたる。

→ 材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。

① 材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。

これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、工作機械に取り付ける部品の消費額をあらわしていることになるため、**オ** となる。

| | | | |
|-----|-----------|-----|-----|
| (借) | 製 造 間 接 費 | (貸) | 材 料 |
|-----|-----------|-----|-----|

② 賃金・給料勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、賃金・給料の消費額のうち直接労務費を意味している。よって、工作機械の設定変更に要した時間分の賃金消費額をあらわしていることになるため、**イ** となる。

| | | | |
|-----|-------|-----|-----------|
| (借) | 仕 掛 品 | (貸) | 賃 金 ・ 給 料 |
|-----|-------|-----|-----------|

③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、製造間接費の配賦額をあらわしていることになるため、**エ** となる。

| | | | |
|-----|-------|-----|-----------|
| (借) | 仕 掛 品 | (貸) | 製 造 間 接 費 |
|-----|-------|-----|-----------|

④ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、当月に完成した製品の原価をあらわしていることになるため、**ア** となる。

| | | | |
|-----|-----|-----|-------|
| (借) | 製 品 | (貸) | 仕 掛 品 |
|-----|-----|-----|-------|

⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわしている。

これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振り替えたことを意味している。

よって、当月に販売した製品の原価をあらわしていることになるため、**ウ** となる。

| | | | |
|-----|---------|-----|-----|
| (借) | 売 上 原 価 | (貸) | 製 品 |
|-----|---------|-----|-----|

第5問

直接材料費

資料3. 材料元帳より

材 料 元 帳

(移動平均法)

素 材 α

(単位：円)

| 日 付 | 摘 要 | 受 入 | | | 払 出 | | | 残 高 | | |
|-----|------------|-----|---------|---------|-----|---------|---------|-----|---------|--------|
| | | 数量 | 単価 | 金額 | 数量 | 単価 | 金額 | 数量 | 単価 | 金額 |
| 10 | 1 前月繰越 | 5 | 10,000 | 50,000 | | | | 5 | 10,000 | 50,000 |
| | 2 出庫(#58) | | | | 3 | 10,000 | 30,000 | 2 | 10,000 | 20,000 |
| | 6 仕 入 | 3 | 9,800 | 29,400 | | | | 5 | 9,880 | 49,400 |
| | 21 出庫(#59) | | | | 4 | 9,880 | 39,520 | 1 | 9,880 | 9,880 |
| | 27 仕 入 | 4 | 9,752 | 39,008 | | | | 5 | 9,777.6 | 48,888 |
| | 31 次月繰越 | | | | 5 | 9,777.6 | 48,888 | | | |
| | | 12 | | 118,408 | 12 | | 118,408 | | | |
| 11 | 1 前月繰越 | 5 | 9,777.6 | 48,888 | | | | 5 | 9,777.6 | 48,888 |

直接材料費の転記（材料元帳作成より）

#58：10/ 2 出庫分 ¥30,000

#59：10/21 出庫分 ¥39,520

直接労務費の計算

資料 4. 10 月の直接工に対する基本賃金 と 資料 5. 10 月の直接工による就業時間の内訳 より

- ① 直接工の 1 時間当たりの賃金（消費賃率）を計算する

$$\begin{aligned} \text{消費賃率} &= 10 \text{ 月の直接工に対する基本賃金 } ¥368,000 \div \text{就業時間の合計 } (0+2+2+15+78+46+14+3) \\ &= @ ¥2,300 \end{aligned}$$

- ② 各製造指図書の直接作業時間を計算する 段取時間と加工時間が直接作業時間となる

$$\#57: 0 \text{ 時間} + 15 \text{ 時間} = 15 \text{ 時間}$$

$$\#58: 2 \text{ 時間} + 78 \text{ 時間} = 80 \text{ 時間}$$

$$\#59: 2 \text{ 時間} + 46 \text{ 時間} = 48 \text{ 時間}$$

- ③ 直接作業時間に 1 時間当たりの賃金（消費賃率）をかけて直接労務費を計算する

$$\#57: 15 \text{ 時間} \times \text{消費賃率} @ ¥2,300 = \underline{\underline{¥ 34,500}}$$

$$\#58: 80 \text{ 時間} \times \text{消費賃率} @ ¥2,300 = \underline{\underline{¥184,000}}$$

$$\#59: 48 \text{ 時間} \times \text{消費賃率} @ ¥2,300 = \underline{\underline{¥110,400}}$$

製造間接費の計算

資料 5. 10 月の直接工による就業時間の内訳 と 資料 6. 10 月の製造間接費実際発生額 より

- ① 各製造指図書の直接作業時間を計算する 段取時間と加工時間が直接作業時間となる

$$\#57: 0 \text{ 時間} + 15 \text{ 時間} = 15 \text{ 時間}$$

$$\#58: 2 \text{ 時間} + 78 \text{ 時間} = 80 \text{ 時間}$$

$$\#59: 2 \text{ 時間} + 46 \text{ 時間} = 48 \text{ 時間}$$

直接作業時間の合計を計算する

$$15 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間} + 48 \text{ 時間} = 143 \text{ 時間}$$

- ② 製造間接費の 1 時間当たりの配賦額（配賦率）を計算する

$$\text{配賦率} = \text{製造間接費実際発生額 } ¥543,400 \div \text{直接作業時間の合計 } 143 \text{ 時間} = @ ¥3,800$$

- ③ 直接作業時間に 1 時間当たりの配賦額（配賦率）をかけて製造間接費を計算する

$$\#57: 15 \text{ 時間} \times \text{配賦率} @ ¥3,800 = \underline{\underline{¥ 57,000}}$$

$$\#58: 80 \text{ 時間} \times \text{配賦率} @ ¥3,800 = \underline{\underline{¥304,000}}$$

$$\#59: 48 \text{ 時間} \times \text{配賦率} @ ¥3,800 = \underline{\underline{¥182,400}}$$

各製造指図書の集計

製造指図書 #57 <前月より製造着手 当月完成>

| | |
|---------|-----------|
| 月初仕掛品原価 | ¥ 402,350 |
| 直接材料費 | ¥ — |
| 直接労務費 | ¥ 34,500 |
| 製造間接費 | ¥ 57,000 |
| 合計 | ¥ 493,850 |

製造指図書 #58 <当月より製造着手 当月完成>

| | |
|-------|-----------|
| 直接材料費 | ¥ 30,000 |
| 直接労務費 | ¥ 184,000 |
| 製造間接費 | ¥ 304,000 |
| 合計 | ¥ 518,000 |

製造指図書 #59 <当月より製造着手 当月仕掛中>

| | |
|-------|-----------|
| 直接材料費 | ¥ 39,520 |
| 直接労務費 | ¥ 110,400 |
| 製造間接費 | ¥ 182,400 |
| 合計 | ¥ 332,320 |